

令和7年度 第3回倉吉博物館協議会報告

日時 令和8年3月13日（金）午前10時～11時30分

場所 倉吉歴史民俗資料館 研修室

出席者 委員…宮本会長、谷繁副会長、中山委員、岡本委員、岡野委員、岩垣委員、
中村委員、小川委員（欠席：森下委員）

教育委員会…中田教育長

事務局…根鈴館長、森主幹、関本主幹、伊藤主任学芸員、橋本学芸員、
松田学芸員

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 教育長あいさつ
- 4 報告事項

【主な質問】

(1) 令和8年度事業について（P1～11）

小川委員）アートリップの活動を続けていく中で、今後の取り組みや問題点など。
→博物館）市長寿社会課が参加者に声掛けしているが、5名程度しか受入ができない。
来年度も連携しながら実施予定であり、積極的に広報していく。

小川委員）移動や人数など大変だと思う。こちらから施設に出向く考えはあるか。
→博物館）現状では施設に出向くことは考えていない。実際に作品を見ることによって、気づきや感情の動きがある。施設からも博物館に来てよかったという感想を聞いた。博物館内で実施する意味は大きい。認知症当事者だけでなく、家族にとっても外出機会となる。

岡本委員）総来館者数から団体利用を引いた子どもの利用数はわかるか。博物館はどうしても大人向けの印象がある。実態を知りたい。
→博物館）小・中学生：414人、高校大学生：116人。

中村委員）小学3年生の「ふるさと学習」の反応や感想があればうかがいたい。
→博物館）市内全小学校の3年生が来館、45分程度の解説と自由見学の流れ。道具の変遷だけではなく、太一車など地元の子供たちが誇りに思えるような素材が倉吉にはたくさんある。そのあたりを含めて解説すると、子供たちにも印象深く残るようだ。あわせて他の展示室の鑑賞なども広がった。

岩垣委員）倉吉西高のふるさとラリーはどのような事業か。
→博物館）倉西高の生徒が学校を出発し、郷土の歴史文化に触れるというテーマで各ポイントをめぐる。博物館はチェックポイントとなっていた。

- 5 協議事項

(1) 令和7年度重点施策の実績評価について（P12～21）

【主な意見】

岩垣委員）県美連携事業として12月に書道の展示を行い、大家の作品も展示した。

近い将来、倉吉博物館でも展示されると嬉しい。

→博物館) 作品の所蔵館である県立美術館とも協議し、中央書道連盟展とあわせて展示することも可能と思う。

谷繁副会長) 倉吉博物館は派手ではないが良い企画がたくさんあり、県立美術館とは違う魅力がある。県立美術館のついでに倉吉博物館に来たら、とてもよかったので、その後何回か通ったという鳥取市の人の話も聞いた。

宮本会長) 内容はよかったが残念ながら入館者数が少ない。もっと人に来ていただくために広報費をつけるなど考えてはどうか。

→博物館) 広報はポスター、チラシ配布など行っている。新聞紙面等の広告予算は計上していない。展示を鑑賞された方からの友人などへのクチコミも大きな宣伝になると思う。

岡本委員) 集客が難しいのは実感している。コミュニティ放送も効果があるし、コミセンの館長会に宣伝に来られる団体もある。コミセンは団体鑑賞を計画する。

中村委員) 県立図書館もいろいろ方策をしている。ティッシュを配ったりもするが、手渡しの効果もあるし、PR方法もいろいろある。

(2) 令和8年度重点施策(案)について

岡野委員) デジタルアーカイブの進捗状況と具体的な状況をうかがいたい。

→博物館) 美術資料を約100点公開、今年度末に50点追加予定。

小川委員) デジタルアーカイブ化は予算化されているのか。

→博物館) 博物館単独の予算はついていない。国の補助金を受けて実施した市全体のデジタル田園都市計画のひとつとして博物館のホームページやデジタルアーカイブも作成された。

(3) 第4期倉吉市教育振興基本計画について(別冊)

→博物館) 前回の協議会では、第3期計画の振り返りを示し、第4期はそれを踏まえた取り組みである。配布した資料はこの会議で初見となるが、方針としてご理解いただき、お気づきの点などあればお聞かせいただきたい。

6 その他

- ・特別展「たてのひろし絵本原画展」について紹介(伊藤主任学芸員)
- ・デジタルミュージアムについて紹介(橋本学芸員)

7 閉会